

[かぶらやグループ]従業員の母国支援に向けた全社的な取り組みを実施 ミャンマー大地震復興支援のため 289 万 4767 円を寄付

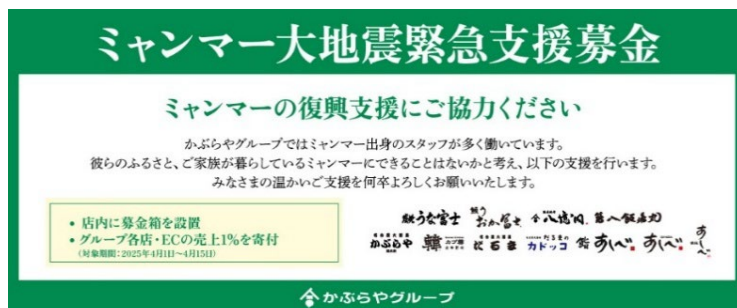
愛知県を拠点に「炭焼 うな富士」「第八飯場丸」「名古屋大酒場 だるま」などを運営する株式会社かぶらやグループ(本社:名古屋市中区千代田、代表取締役社長:榎本 渉)は、2025 年 3 月 28 日(金)にミャンマーで発生した大地震を受け、被災地の日も早い復興を願い、店頭募金活動および売上の一部を寄付する支援活動を実施しました。グループ店舗の売上の 1%を、国際支援団体へ 289 万 4767 円を寄付いたしました。

炭焼うな富士・通販を含む、グループ全店の売上 1%にあたる「2,894,767 円」を寄付

■支援活動の概要

- ・対象期間:2025 年 4 月 1 日(火)~4 月 15 日(火)
- ・実施店舗:かぶらやグループ全 10 ブランド、19 店舗
- ・寄付金額:2,894,767 円(期間中売上の 1%)
- ・寄付先:国際支援団体(4 月 28 日振り込み)

※店頭には 5 月 7 日(水)まで募金箱を設置、
いただいたご支援金は 5 月中旬に寄付予定。



かぶらやグループでは、店舗およびセントラルキッチン(工場)において、多くのミャンマー国籍従業員が日々の業務を支えています。3 月 28 日(金)、ミャンマーで大地震が発生したとの報道を受け、社内連絡ツールを通じて、ミャンマー国籍のスタッフのご家族の安否をいち早く確認しました。そのわずか 30 分後には、「ミャンマーのために自分たちにできることをしよう」と社内で声が上がリ、お客様や従業員への募金呼びかけと、会社としての売上寄付を決定しました。

ミャンマー出身スタッフと役員が語る想いと支援の背景

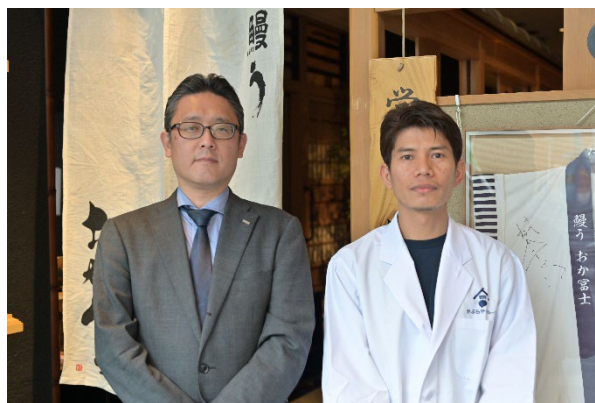
ミャンマー出身スタッフ ソウ

「私の実家は大きな被害もなく一安心していましたが、マンダレイにある妻の実家の 2 階は倒壊しました。いま、国家が不安定なミャンマーで、家族への心配はとてもあります。会社このような取り組みをしていただけたこと、ミャンマーの国民のひとりとして、国を代表してとてもありがたいことで、本当に感謝しかありません。」

【写真右】(ソウ/正社員)

常務取締役 武田誠史

「20 歳の頃、学生アルバイトとして働き始めたとき、僕にいろはを教えてくれたのは洗い場にいたミャンマー出身のウエンさんでした。居酒屋は本当に忙しくて、洗い物が山積みของときも、いつでも笑顔で「はい、よろこんで」と働くウエンさんがいたから今の僕がいます。これまで、そしてこれからも会社を支えてくれているミャンマー出身の仲間たちに、何もしないという選択肢はありませんでした。彼らへの感謝と、被災されたミャンマーのいち早い復興を願って、ささやかではありますが募金及び売上の一部を寄付させていただきました。」【写真左】(武田誠史/常務取締役)



【株式会社かぶらやグループ 会社概要】

- ・本社所在地:愛知県名古屋市中区千代田 代表者:代表取締役社長 榎本 渉
- ・公式サイト:<https://kaburaya-group.co.jp/>

1992 年、名古屋市中区にて創業。うなぎ料理・うなぎの通販をはじめ、居酒屋・鮨・レストランなど、幅広い飲食業態を展開。「幸腹」の刻をともし、をミッションに、お客様のひとときが幸せな時間となるよう、長く愛される店舗づくりを追求しています。

＜お問い合わせ先＞052-332-1388(代)

株式会社 かぶらや マーケティング本部 河合・印藤/s-into@kaburaya-group.co.jp